

福島県立医科大学小児科 教授

細矢 光亮

2011年3月11日の東日本大震災からちょうど10年が経ちました。福島県では、日本小児救急医学会「東日本大震災小児医療復興新生事務局」を通じて、全国のたくさんの方々より、県内の3つの病院に対して温かいご支援を頂いております。



福島県太平洋沿岸部の相馬双葉地区にある公立相馬病院は、地震、津波、原発事故で大きな被害を受けましたが、この地区で唯一の小児入院機能を堅守しています。中通り中部にある公立岩瀬病院は、常時20-40名の小児入院患者があり、2017年4月には周産期医療を担う新病棟がオープンして周産期・新生児医療も始まり、県中地域の小児科診療拠点の一つに成長しています。超過疎地域の南会津地方にある県立南会津病院は、他の医療圏からは遠く離れており、たった1人の小児科医がこの地域の小児医療を担っています。

お蔭様で、一旦崩壊しかけた福島県の小児医療体制は、ようやく回復に向かっております。これからも、「ほそくながく」ご支援をお願いします。

2021.3.11

「ほそくながく」

2011年3月の東日本大震災から6年が経ちました。これまで、全国のたくさんの方々より温かいご支援をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。

太平洋沿岸部にある公立相馬病院は、地震、津波、原発事故で大きな被害を受けた相馬双葉地区にあり、この地区で唯一の小児入院施設を有する小児医療の砦です。常勤医3名が地域小児医療を担ってきましたが、震災後は原発事故による避難者の増加もあり、常勤医が疲弊しておりました。日本小児救急医学会を通じた公立相馬病院への休日診療支援は、常勤医の心身の負担を軽減するのに大いに役立ちました。



2013年10月から、日本小児救急医学会の支援募集医療機関に福島県中通り中部にある公立岩瀬病院を加えていただきました。公立岩瀬病院は地震被害により旧病院の使用が困難になりましたが、幸い竣工されたばかりの新病院に円滑に移転し、診療を継続することができました。震災前と同様に常時20-40名の入院患者がおり、これを僅か3名の常勤医が粉骨砕身し、これに日本小児救急医学会の支援をいただき、この難局を乗り切ってくれました。2017年4月には周産期医療を担う新病棟がオープンし、福島県中通りの小児科診療拠点の一つに成長しつつあります。

2015年8月から福島県南会津地方の県立南会津病院を9番目の支援施設に加えていただきました。超過疎地域ですが、他の医療圏からは遠く離れており、たった1人の小児科医がこの地域の小児医療を護ってくれています。休日の診療支援をいただき、常時拘束される状況から解放される時間を持てるようになりました。

一旦崩壊しかけた福島県の小児医療体制でしたが、日本小児救急医学会「東日本大震災小児医療復興新生事務局」を通じた様々なご支援をいただいたこともあり、順調に回復してきています。これからも、「ほそくながく」ご支援をお願いします。

2017.3.11

支援は「ほそくながく」

2011年3月の東日本大震災から5年が経ちました。これまで、全国のたくさんの方々から、温かいご支援をいただき、本日を迎えることができました。皆さまに、心より感謝申し上げます。

太平洋沿岸部にある公立相馬病院は、地震、津波、原発事故で大きな被害を受けた相双地区にあり、この地区で唯一の小児入院施設を有する小児医療の砦です。常勤医3名が地域小児医療を担ってききましたが、震災後は原発避難地域からの避難者の受診や震災に関連するところの診療を要する小児の受診などの増加もあり、常勤医が疲弊しておりました。日本小児科学会および日本小児救急医学会を通じた公立相馬病院への休日診療支援は、常勤医の心身の負担を軽減するのに大いに役立っています。

2013年10月から、日本小児救急医学会の支援募集医療機関に福島県中通り中部に位置する公立岩瀬病院を加えていただきました。公立岩瀬病院は地震被害により旧病院の使用が困難になりましたが、幸い竣工されたばかりの新病院に円滑に移転し、診療を継続することができました。原発事故による避難の方々も多く、震災前と同様に常時20-40名の入院患者がおり、これを僅か3名の常勤医で支えています。長期の小児医療支援を期待しています。

2015年8月からは福島県南会津地方の県立南会津病院を9番目の支援施設に加えていただきました。超過疎地域ですが、他の医療圏からは遠く離れており、たった1人の小児科医がこの地域の小児医療を護ってくれています。常時拘束される状況を改善し、心身が解放される時間を作れるよう、休日の診療支援をお願いします。

一旦崩れかかった福島県の小児医療体制も、日本小児救急医学会「東日本大震災小児医療復興新生事務局」を通じた様々なご支援をいただいたこともあり、回復しつつあります。これからも、「ほそくながく」ご支援をお願いします。

2016.3.11

日本小児救急医学会「東日本大震災小児医療復興新生事務局」を通じ、この一年間、全国の皆様から公立相馬総合病院小児科へご支援をいただきありがとうございました。また、2013年10月からは福島県中通り中部に位置する公立岩瀬病院を募集医療機関に加えていただきました。公立岩瀬病院は震災による被害が大きく、また広範囲におよぶ医療圏内には原発事故による避難の方も多く居住しています。常勤医3名で38床の入院病床を維持しており、皆様のご支援によりとても助かっています。引き続きご支援いただきますようお願い申し上げます。震災後3年が経ち、福島県も少しずつ復興の道のを歩んでおりますが、いまだ原発事故は収束しておらず、多くの子供たちが県内外への避難を余儀なくされています。仮設住宅で暮らす子供たちも大勢います。依然として子供たちを取り巻く環境は厳しいと言わざるを得ません。全国の皆様から未来ある子供たちのために、これまで以上の温かいご支援をこころよりお待ちしております。

2014.7.12

この度、小児救急学会「東日本大震災小児医療復興新生事務局」を通じ、皆様に、公立相馬総合病院小児科へのご支援をお願いすることになりました。

公立相馬総合病院は、福島県立医科大学小児科の関連病院であり、福島県浜通り北部（相双）医療圏の地域小児医療センターとしての機能を果たしております。しかし、震災以前よりこの医療圏を少人数の小児科医でカバーしなければならない状況にあり、震災後はさらに地震・津波や原発事故による子どもたちの問題等にも対応しなければならなくなりました。福島県では原発事故に対する不安が県全域に及んでいるため、相双地域にのみ小児科医を増員派遣することができません。皆様の公立相馬総合病院小児科へのご支援をこころよりお待ちしております。

2013.4.2